

【主な質疑応答】2022年12月期 第1四半期 決算説明会

【全社】

- Q. 原材料価格高騰影響。通期決算発表時は国内で100億円程度、海外も同程度との前提だったが、ロシアウクライナ情勢を受け、変化は？価格改定によって影響を吸収可能か？
- A. 足元、市況変動のぶれ幅が非常に大きく、日々状況も変化している為、年間見通しを示すことは困難だが、最悪想定の2倍程度以上に膨らむことも念頭に置いた上で組み立てていかざるを得ない。価格改定も含むレベニューグロースマネジメント活動、サプライチェーンマネジメントを含めたコストマネジメント活動をさらに強化し、業績予想達成を目指す。
- Q. 原材料価格高騰影響。各原材料、どの程度想定を上回っているか？第1四半期同様、第2四半期以降に影響を大きく受けるのは日本とアジアか？
- A. エネルギー価格、各原材料、包材が一律上昇している。大きなものはレジソ、アルミ、砂糖。日本はさらにコーヒー。各セグメントのポートフォリオによって違いはあるものの、影響を受ける。

【日本】

- Q. 第1四半期は減益。年間業績予想達成は可能か？単価下落傾向に変化は？
- A. 行動制限により、特に自販機、コンビニエンスストア市場の回復が遅れている状況。売上総利益△25億のうち、為替・原材料市況の影響が△30億円。そのうち、ほぼ大半が原材料市況悪化の影響。さらに、活動・構成の影響が△20億円。自販機、コンビニエンスチャンネル回復遅れに伴うチャンネルミックス悪化が影響。活動には、サプライチェーンマネジメントの改善も入っている。足元、いわゆる人流が戻ってきている状況で、チャンネルミックスは回復に向かっていくと見ており、第2四半期以降の活動をしっかりと実施し、年間業績予想達成に向けて取り組んでいく。
- Q. 価格改定実施予定は？
- A. 価格改定は、選択肢として常に検討している。昨今の原油高・円安の急激な進行を受けた原材料市況の高騰や、リサイクルPETボトル等のサステナビリティへの取り組みに対するコスト上昇が業界全体に大きく影響を与えており、企業努力だけでは吸収することが非常に困難な状況となってきている。当社も、今後の対応について具体的に検討している。

【海外】

Q. APAC。価格改定に対する消費者の反応は？連続的に値上げをしても、需要が落ちることなくトップライン成長を期待できるのか？

A. 価格改定による需要の低下は今のところ見られない。タイ、ニュージーランドにおいては、感染者数拡大による行動制限により、トップラインに影響を受けたが、この先需要は回復に向かうと見ている。

Q. 欧州は、想定以上の利益進捗か？

A. コロナ規制もほぼ撤廃され、全マーケットにおいて消費が回復。コアブランドは、第1四半期においてそれぞれ2桁成長、さらに各国で価格改定も進めており、売上数量、金額ともに大きく伸長している。原材料市況・エネルギー価格高騰の影響が見込まれるが、このトレンドはこの先も継続見込み。